

## 蘇民将来とは

[http://hyts-kwhs.cocolog-wbs.com/cogitoergo\\_sum](http://hyts-kwhs.cocolog-wbs.com/cogitoergo_sum) より

聖武天皇時代に発せられた国分寺創立の詔により、各地に国分寺が創立された。其中でも信州上田の、**信濃国分寺**は有名で、仁王門・本堂・三重塔・鐘楼等を始め主たる建物が現存している。

この国分寺で受ける護符の「蘇民将来」は有名である。

「蘇民将来は木製の六角又は八角で塔状をなすものや守札があり『大福長者蘇民将来子孫人也』などと記す。八坂神社末社や長野県上田市国分寺の八日堂をはじめ諸国寺院から出す」と広辞苑にはある。



**蘇民将来**という情深い者が、巨丹（こたん）長者に宿を断られた旅人を厚く遇し、その言葉に従い柳の木に「蘇民将来子孫人也」と書き、これを携帯し門戸に掲げて、その子々孫々が災厄を免れ繁栄したという説話による。この旅人は薬師如来の化身である牛頭（ごず）天王であって、奈良時代からこの信仰が広く広まり、薬師如来や牛頭天王を祭った各地の社寺では「蘇民将来子孫門戸也」と書いた紙札や板のお守りなどを出されたが、現在まで伝わっているものは極めて少なく、この信濃国分寺のものが最も著名となっている。

この蘇民将来の原木は「ヤナギ」（ヤナシ）で、この木は木目が目立たず加工しやすい事や、薬木と言われていることなどの理由で信濃国分寺ではこの木を使っている。信濃国分寺の蘇民将来は大小7種類あり、高さ3寸（約9cm）の護符は常時お参りに行ったときに受けることが出来、最大のものは正月の8日まで（受けられる人は念の為日時確認要）の参拝者に限って受けることが出来る。（蘇と蘓は同字）

今回受けてきた蘇民将来は3寸もので、嘗て京都の石堀小路を歩いた時にも、伊勢神宮の土産店街でも見かけた事がある。各地に残るこの種の信仰は、土地人にとっては特に大切なもので、この種の信仰が気持ちの上に潤いを持たせ、祖先崇拜にも繋がっている事を見逃す事は出来ない。



蘇民将来とは、古代より日本各地に広まった蘇民信仰、蘇民説話にもとづくお守りです。蘇民将来という慈悲深い人にあやかって、このお守りをまつ家は厄災をのがれて代々繁栄すると伝えられています。信濃国分寺の蘇民将来符は五百年以上の伝統があり、格調の高いデザインと、地元民の手作業で作られているため全国的に有名です。毎年1月7日午後から8日の八日堂大縁日にこのお守りが授与されます。



この蘇民将来の原木はドロヤナギ（ヤマナラシ）です。木目が目立たず加工しやすいこと、義木と言われていることなどの理由で、国分寺ではこの木を使います。

蘇民将来は、昔より「蘇民講」と呼ばれる地元農民の組織によって、農閑期の仕事として作成されてきました。

形が出来上がると寺に納められ、住職等によって文字や文様が書きこまれます。そしてご祈禱をした上で、縁日に授与されます。蘇民将来は大小7種類ほどあります。また蘇民講の各家ごとに七福神の絵を描いた蘇民も人気があります（1月8日、朝8時より）。

なお、蘇民将来符は正月の縁日のみの限定です。予約注文・送付等はいたしておりません。ただし高さ3寸（約9センチ）の1種類のみは常時、国分寺にお参りの方にお頒けしております。蘇民将来は、玄関や屋内の棚、神棚などに安置します。

地元の山林から切り出した貴重な原木を生で使用しております。節目やヒビ割れがある場合もございますが、工芸品ではなく護符ですのでご理解下さいますようお願いいたします。

毎日新聞 1月9日(日)11時40分配信

<http://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20110109-00000100-mailo-120> より

上田市国分の信濃国分寺で8日、八日堂縁日があり、500年以上の伝統を持つお守り「蘇民将来符」を求める参拝客でにぎわった。縁日は毎年7、8日に開かれている。今年は好天に恵まれ、週末とも重なり、塩入法道住職によると、例年より多い7万～8万人が訪れたという。

蘇民将来符は、ドロヤナギ（ヤマナラシ）の木を削った厄よけのお守りで、独特の模様と「大福」「長者」などの文字が書き込まれている。大小7種類の計約1万2000体を用意した。また、地元住民でつくる「蘇民講」も各家ごとに七福神の絵を描いた「蘇民将来符」約600体を用意、約2時間で完売したという。